

図1. 発生概要

住 所: 紀の川市

鶏 種: 採卵鶏

飼養羽数: 約100,000羽(成鶏舎)

: 約 20,000羽(育雛舎) * 飼養場所は別

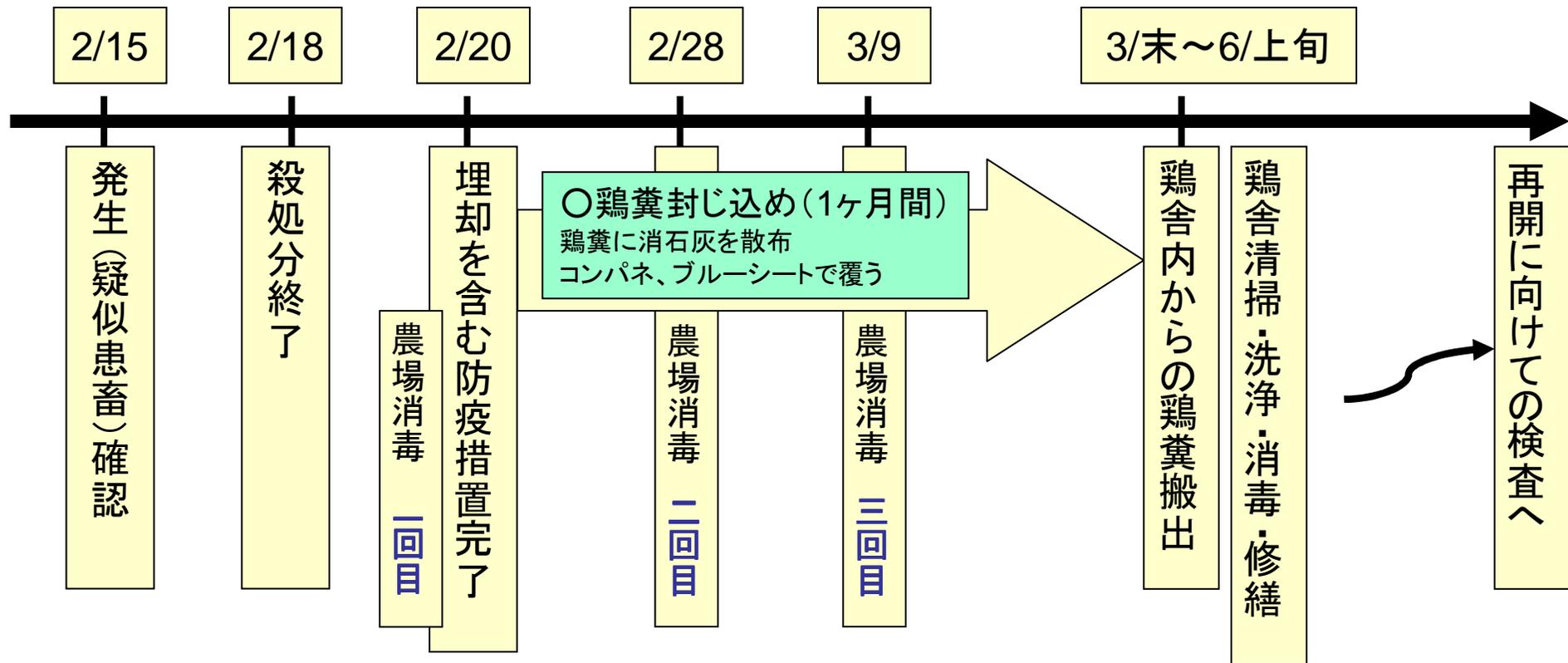
鶏舎棟数、構造: 成鶏舎 14鶏舎 開放

: 育雛舎 11鶏舎 開放

- ・2月15日朝、成鶏舎11号舎で10羽、固まって死亡
- ・簡易検査: 死鶏5羽中4羽、生鶏5羽中1羽で陽性
- ・PCR検査: 採材したスワブで全て陽性
- ・2月19日に動物衛生研究所で分離されたウイルスがH5N1亜型(強毒タイプ)と確定



図2. 発生農場防疫対応



○問題点

- ・防疫センターの変更
- ・連絡システムの混乱
- ・当初の資材不足
- ・防疫員の交代の遅れ
- ・照明設備の不備
- ・暖房設備用意の遅滞

図3. 発生状況検査及び清浄性確認検査

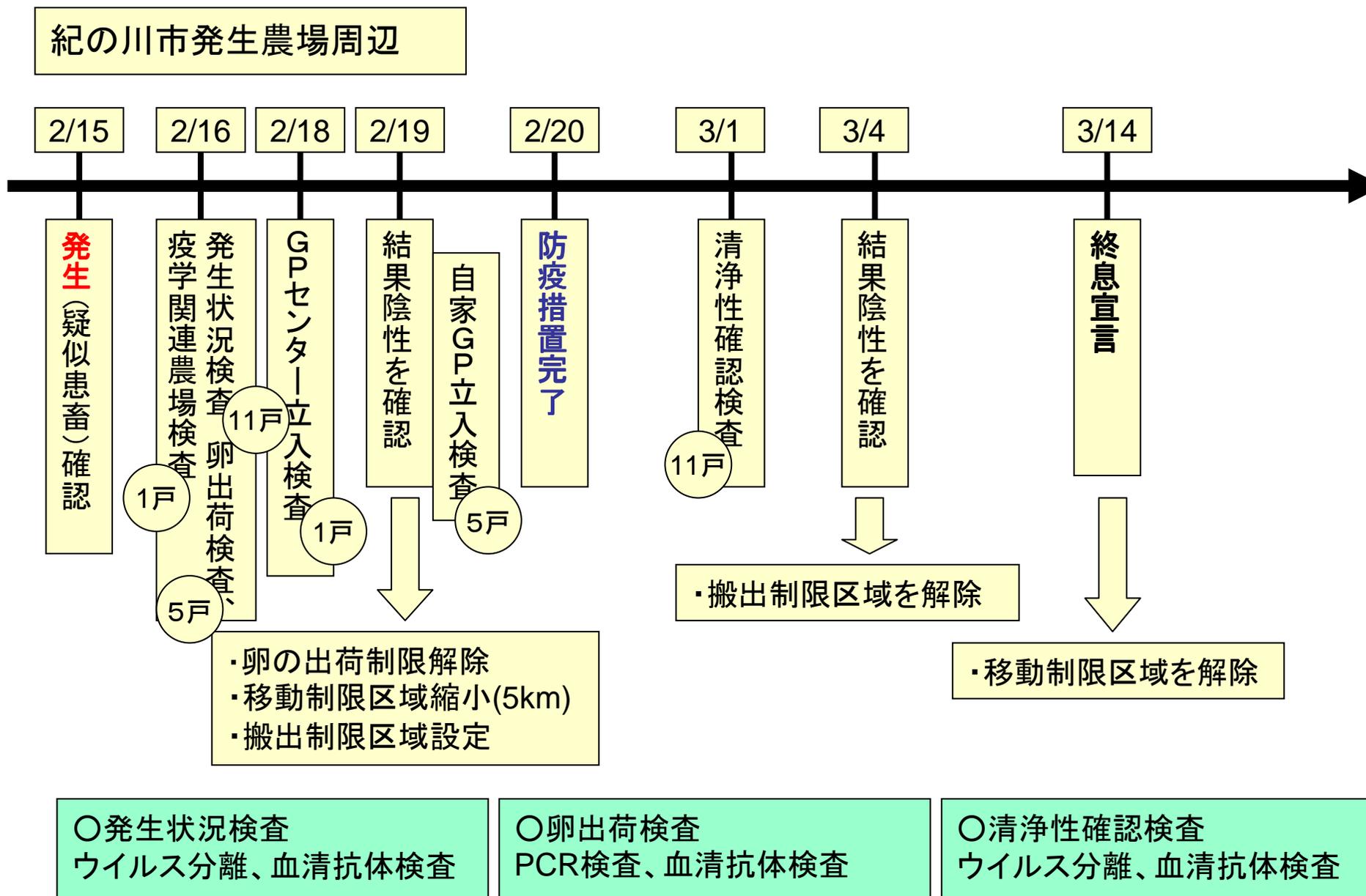


図4. 発生状況検査及び清浄性確認検査

奈良県五條市発生農場周辺

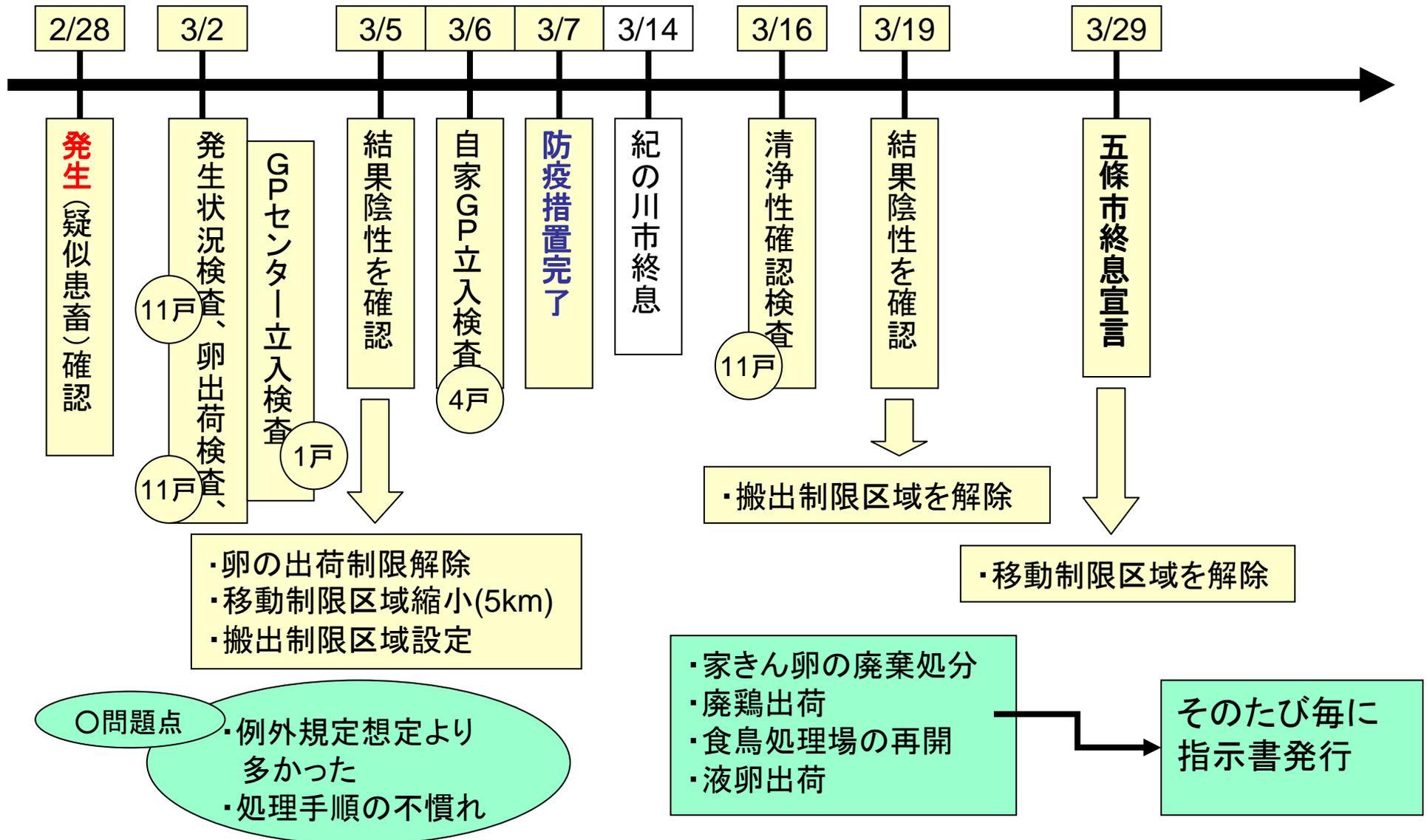


図5. 紀の川市発生消毒ポイント

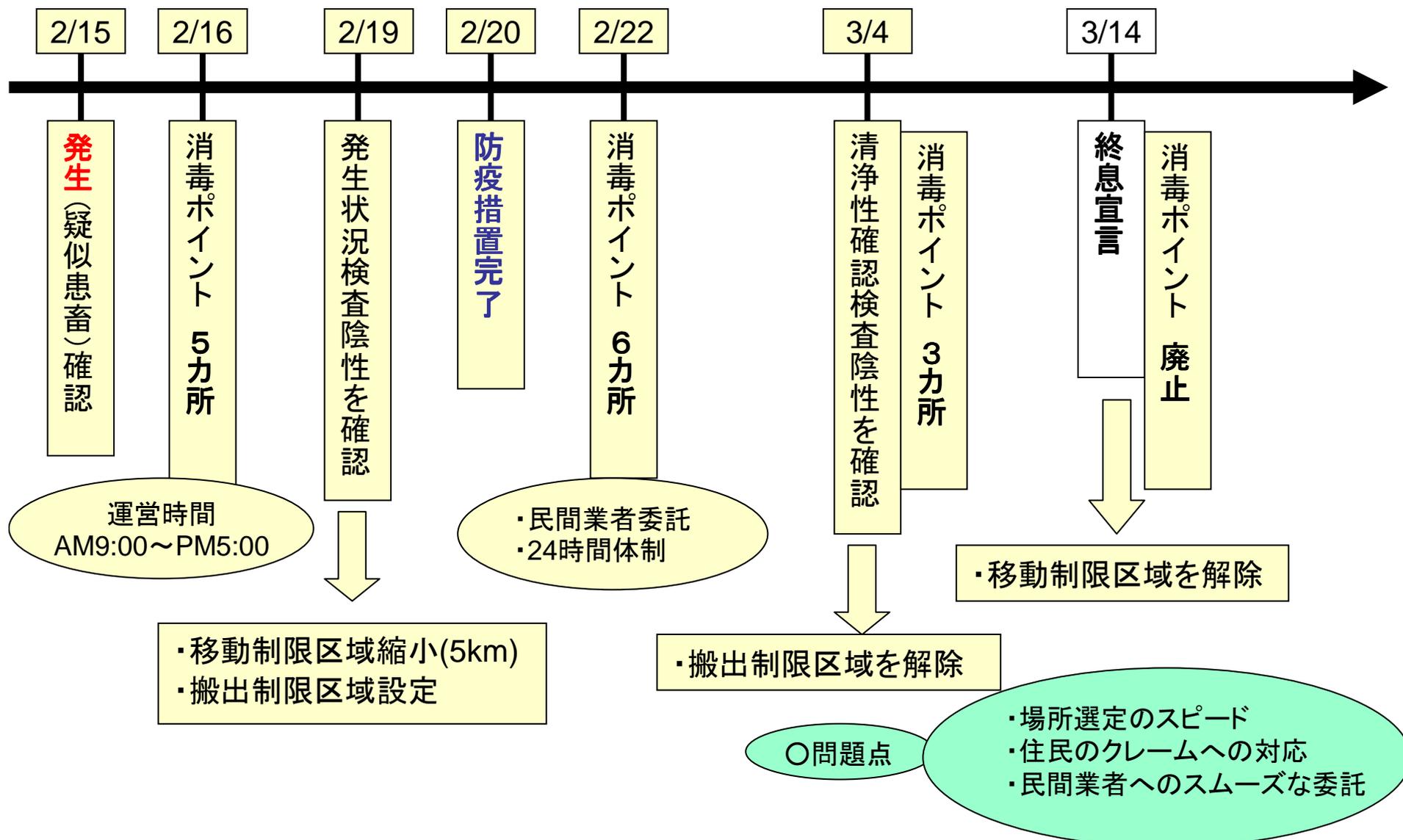


図6. 奈良県五條市発生消毒ポイント

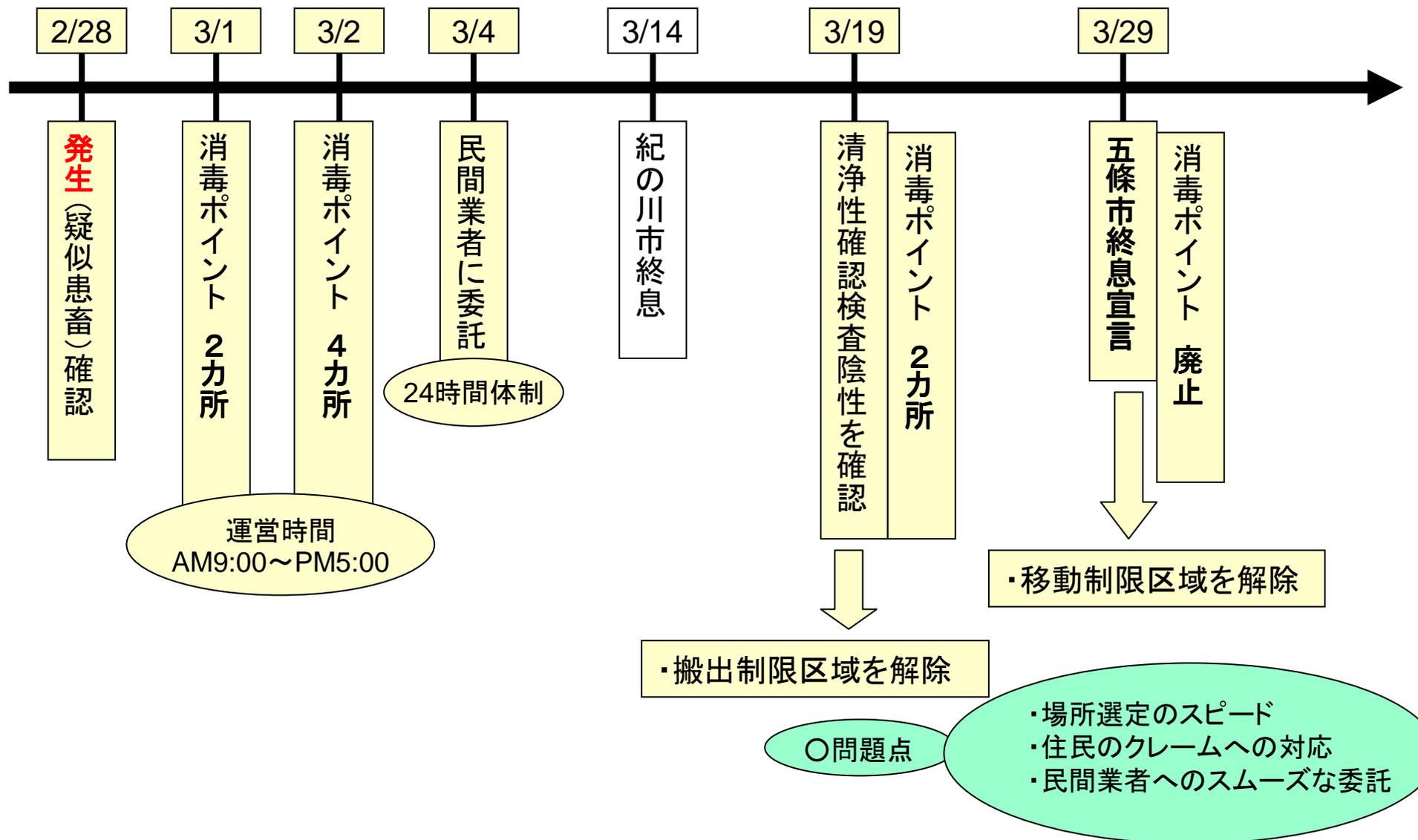


図7. 経営再開のための検査

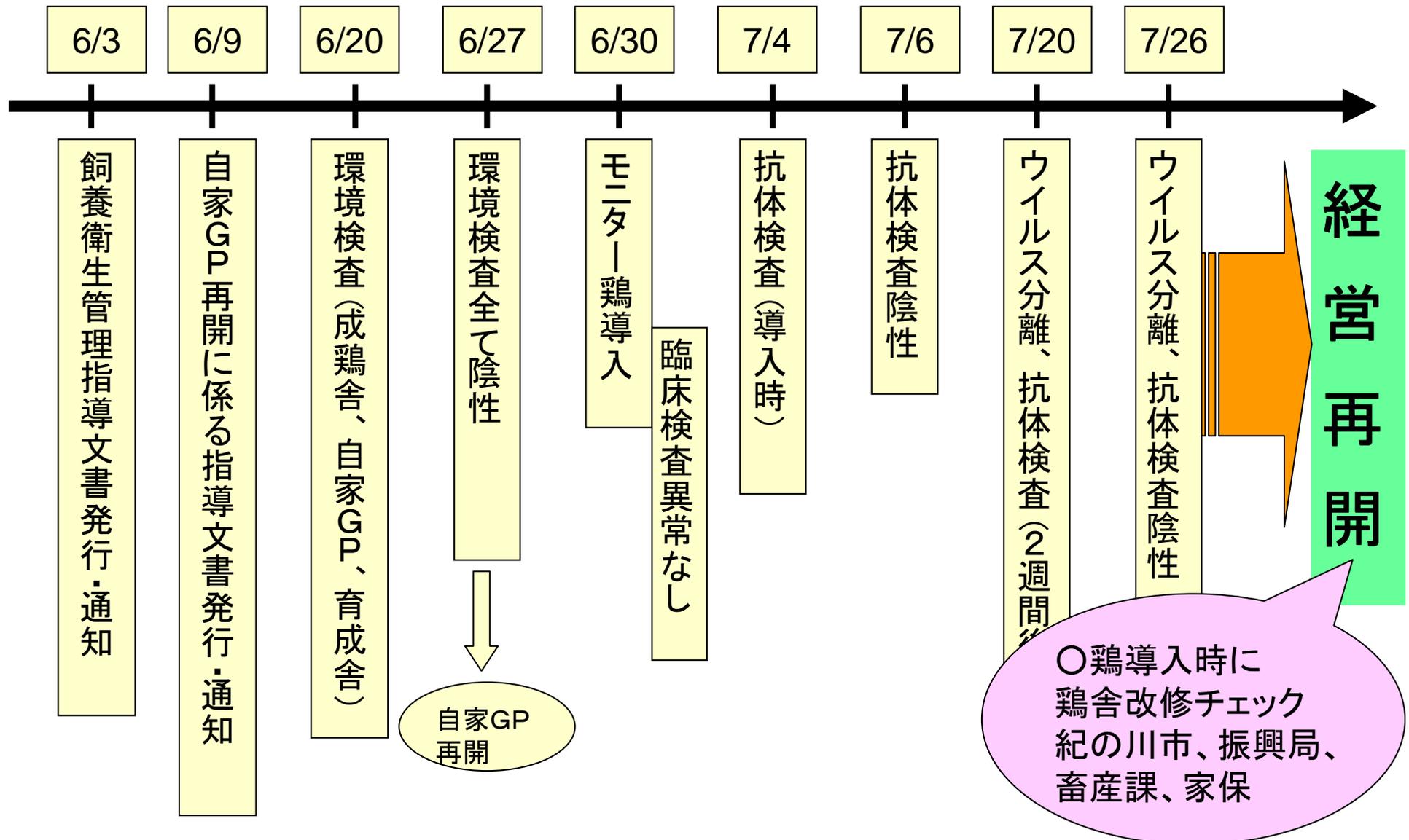


図8. 環境検査（6月20日）

○採材箇所：成鶏舎（14鶏舎）

自家GP（3室）

育雛舎（11鶏舎）

○採材方法：各鶏舎、自家GPの6箇所（天井、床、壁）

を10cm四方を綿棒で拭き取り

○ウイルス分離：拭き取ったものを検体として、

発育鶏卵に接種

○検査結果：全て陰性（6月27日に通知）

図9. モニター鶏の検査

○7月4日

各鶏舎(成鶏舎14鶏舎、育成鶏11鶏舎)2羽ずつ採血
・・・抗体検査(ゲル内沈降反応)

25鶏舎×2羽=50検体
全て陰性(7月6日に通知)

○7月20日

各鶏舎6羽採血・・・・・・・・・・・・抗体検査(ゲル内沈降反応)

25鶏舎×6羽=150検体

各鶏舎気管スワブ 6羽プール・・・ウイルス分離(発育鶏卵接種)

各鶏舎クロアカスワブ6羽プール・・・ウイルス分離(発育鶏卵接種)

25鶏舎で25検体

全て陰性(7月26日に通知)

図10. 移動制限解除後の周辺農場の検査

○移動制限区域内に入った農家は、移動制限解除後から3ヶ月以内に、清浄性確認検査を実施

・紀の川市 11戸

3月14日 移動制限区域解除

5月11～18日に清浄性確認検査を実施

ウイルス分離、抗体検査・・・全て陰性

・奈良県五條市 11戸

3月29日 移動制限区域解除

5月23～25日に清浄性確認検査を実施

ウイルス分離、抗体検査・・・全て陰性

図11. まとめ

- ・発生農場防疫対応等・・・殺処分等の防疫措置、農場消毒(3回)、鶏糞処理、消毒ポイント
- ・周辺農場検査・・・発生状況検査、家きん卵出荷のための検査、清浄性確認検査、例外規定
- ・経営再開のための検査・・・環境検査、モニター鶏検査
- ・移動制限解除後の検査・・・3ヶ月以内に清浄性確認検査

○発生農場は成鶏舎9鶏舎、育成舎11鶏舎を使用して、約80,000羽飼養を予定

今後も鶏舎改修をチェック、飼養衛生管理基準の遵守を指導し、再度発生のないよう努める